

本学卒業生の勤務状況や現在の心境等を把握し、卒業生の支援をするとともに、大学での学びが就職後どのように生かされているか、面談とアンケートを通して検証し、大学の学びを可視化した。

大学での学びが生かされているかについて、卒業生と所属長（園長等）を対象に、4つの視点（①専門知識、②技能、③考え方、④人間関係）で調査し、経年変化についても検討した（表1及び図1）。

全ての項目において、卒業生のうち保育職（幼稚園や保育所、認定こども園など）に就いた者の自己評価は所属長より低い低下傾向であった。対象となる卒業生は、新型コロナウイルス感染症拡大初期に在学しており、学びの形態の変化や子どもと直接関わる経験の少なさが自己肯定感の低さに繋がっていると考えられるが、今後は所属長の評価が高いことを卒業生にフィードバックし、自信をもって保育をしてみようようにしたい。

一方で、卒業生に対する所属長の「考え方」「人間関係」の評価が「専門知識」「技能」の評価に比べて、低い傾向にあったことから、今後はリカレント教育を通して高める支援を行うと同時に、学科内で情報を共有し、本学の教育に反映させ、指導の改善にも生かしていく。

表1 2022年度卒業生（7期生）訪問結果概要

（2024.8.28 学科会議報告）

就職先		配布数 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)	大学での学びが現在生かされているか (%)			
					専門知識	技能	考え方	人間関係
卒業生	保育職	66	15	22.7	73.3	86.7	73.3	73.3
	教育職				100.0	100.0	100.0	100.0
	企業				100.0	100.0	100.0	40.0
所属長 (園長等)		49	22	44.9	90.9	90.5	81.8	80.0

* 対象は、2023年3月卒業生であり、調査期間は2023年11月～2024年1月であった。

* 各設問は、「①非常に活かされている」「②どちらかと言えば活かされている」「③どちらでもない」「④どちらかと言えばそう活かされていない」「⑤あまり活かされていない」の5件法で回答してもらった。表には、そのうち①と②の割合の合計を示している。

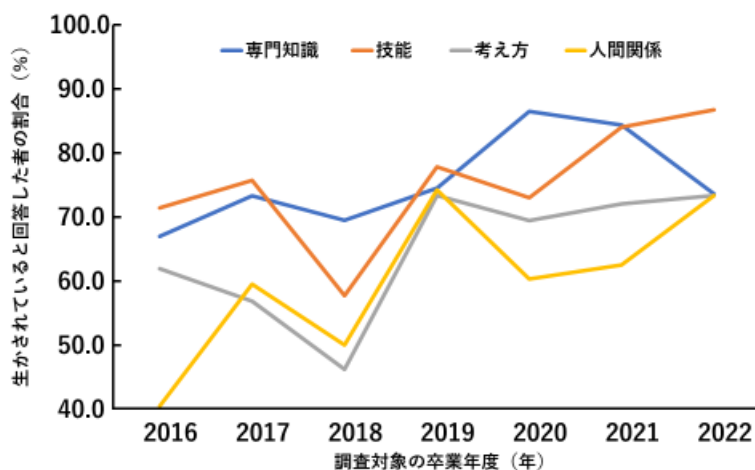


図1 2016年度から2022年度の卒業生の経年変化（保育職）